

## 天理よろづ相談所病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。

お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。

また、この研究は当院の研究倫理委員会の審査を受け、病院長の許可を受けて実施しています。

研究課題名	メポリズマブ治療中の好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）患者におけるベンラリズマブ切り替え後の臨床経過に関する後方視的観察研究
当院の研究責任者（所属）	総合内科 三宅 啓史
本研究の目的	この研究は、EGPAの患者さんでメポリズマブを使用している患者さんのうち、ベンラリズマブへ治療切り替えが行われた患者さんの臨床経過を後ろ向きに解析し、ご病気の再燃との関連を検討するものです。メポリズマブはEGPAの治療における主要な生物学的製剤であり、近年ではベンラリズマブも承認され、実臨床において使用され始めています。過去の臨床試験では、ベンラリズマブはEGPAの寛解を維持する上でメポリズマブと同等の有効性を示しています。しかし、メポリズマブは月1回、3本の注射薬を用いるのに対し、ベンラリズマブは月1回、1本の皮下注射で投与される薬剤であり、患者さんの負担に差がある可能性があります。また、両者には薬価の違いもあり、医療費も異なる場合があります。今回の研究では、メポリズマブを使用しているEGPA患者さんのうち、ベンラリズマブに切り替えた患者さんと切り替えなかった患者さんの臨床経過を観察し、疾患再燃の発生状況や、治療継続状況を調査します。
調査データ 該当期間	1997年1月1日から2027年12月31日まで
研究方法 (使用する試料等)	2018年1月1日から2025年12月31日に総合内科でEGPAに対してメポリズマブを投与された患者様  診療記録、検査データ、画像検査結果、治療内容

<p>試料・情報の 他の研究機関への 提供および提供方法</p>	<p>他の機関への試料・情報の提供はありません</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>研究に利用する試料や情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。当院の研究責任者は、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける情報も含めて、責任をもって適切に管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報が公表されることは一切ありません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。利益相反については、当院の利益相反委員会で審査され、適切に管理されています。</p>
<p>研究期間</p>	<p>病院長承認日 ～ 2027年12月31日</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>天理よろづ相談所病院 総合内科 電話：0743-63-5611（代表） 研究責任者：三宅 啓史</p>